



### MERRY CHRISTMAS in Handai Hospital

クリスマスイブの夜、小児医療センターの病室に夕食を運んできたのは、なんとサンタクロース！ 本院初の試みとして、栄養マネジメント部職員がサンタに扮し=右写真=、手作りのクリスマスカードとともに夕食を届けました。いつもはあまり食べられない子供達も、思いがけないサンタの登場に気分が高揚し、食事が進んだようです。



翌25日には、恒例のクリスマスコンサートが外来エントランスホールで開催されました=上写真。第一部では大阪女学院高等学校ハンドベル部の方々による清らかなクリスマスソングの音色が響き、第二部では本学スペイン舞踊研究部「アルコンパス」のメンバーによる熱いフラメンコが披露され、楽しいクリスマスのひとときを皆さんに過ごしていただきました。

### 司法修習生が病院見学

新65期司法修習生18人と指導弁護士5人が、医療安全に関する講義の受講と病院見学のため9月26日に本院を訪れました。裁判官や検察官、弁護士などを目指す司法修習生は、南正人手術部長と藤野裕士集中治療部長事務取扱の案内により各部署を見学した後、中島和江中央クオリティマネジメント部長から医療安全に関する取り組みの実際や国内外の最新の知見に関する講義を受けました。

司法修習生からは、▽医療安全に関する病院の取り組み状況がよくわかった▽人間の認知能力の特性と限界が理解できた▽医師の生の声や現場を知ることができてよかった—などの感想をいただきました。

### セカンドオピニオン外来の場所を変更

セカンドオピニオン外来は、本院以外の医療機関に入院または通院中の患者さんを対象に、本院の専門医が診断内容や治療法等に関して助言を行う、平成17年に開設された外来です。

開設当初は総合診療外来の診察室で行ってましたが、依頼件数が年々増加(昨年度:約400件)していることや、従来の診察室ではスペースが狭いこともあり、11月1日から外来①番窓口横の保健医療福祉ネットワーク部の相談室2に場所を変更しました。

### 患者さんからのご意見に答える掲示板

患者さんからのご意見等に対して、その改善状況や取り組みを広く知ってもらうことを目的として、ご意見箱掲示板を新設しました。患者さんからいただいた貴重なご意見やご要望を真摯に受けとめ、よりご満足いただける病院となることを目指して、改善に向けての検討を行っています。これからも患者さんを選んでいただける病院となるよう、より良いサービスの提供に取り組んでまいりますので、忌憚のないご意見をお待ちしています。



### 市民公開フォーラムを開催

12月1日に医学部講義棟において市民公開フォーラム「がんの予防と早期診断」を開催しました。本院では年に1回「市民公開フォーラム」を開催しており、今年度は「がんの予防と早期診断～がんを早く見つけるために～」をテーマに、本院の水木満佐央・化学療法部長の開会挨拶後、中山富雄・大阪府立成人病センターがん予防情報センター疫学予防課長ら3人の方々にご講演いただきました。当日は、100名を超える参加者が熱心に耳を傾け、「質問コーナー」では活発な質疑応答が行われ、盛況のうちに終了しました。

がん治療において、放射線治療が注目されています。高齢で合併症があり外科的な治療が難しい症例にも適した治療法です。本院放射線治療科では、最先端の技術と機器により安全で効果的な治療を行っています。放射線治療の分野ではコンピュータ技術の進歩とともに高性能な



最新機器を使って効果的・安全に治療が行われる

画像診断データをもち、がん病巣の位置情報をリアルタイムに分析して、ロボットアームによって100以

照射機器が開発され、副作用が少なく、治療効果が高くなってきました。その代表が、がん病巣をピンポイントで攻撃できるリニアック(直線粒子加速器)です。さらに、リニアックによる放射線をがん病巣の形に合わせて照射できるように工夫された強度変調放射線治療(IMRT)という方法も開発され、広範囲に複雑な形をした病巣でも正常な組織に障害をほとんど与えることなく治療できるようになってきました。

## 照射精度を高め、安全・効果的に

### 放射線治療科

上の方向から照射することのできるサイバーナイフは、脳腫瘍のように周辺組織が損傷されると重大な機能障害

が起る可能性のあるがんに威力を発揮しています。平成26年の夏には最新鋭のサイバーナイフが導入され、脳腫瘍や咽頭・喉頭・舌など頭頸部だけでなく、肺などの体幹部臓器も治療対象になります。

当科はこれらの最新鋭の機器を使い、患者さんの声や嚙下機能などが損なわれないQOL(生活の質)を保った治療に力を入れていきます。また、がん病巣に小さな放射性物質を埋め込む小線源治療も

泌尿器科や婦人科と共同で行っています。さらに、最先端の放射線治療である粒子線治療も将来的な視野に入れています。

当科では医師だけではなく放射線技師、医学放射線技師、物理士とタッグを組み、患者さんが安心して、高度な治療を受けることができる放射線治療を目指しています。

### サプライセンター



多様な消耗品が迅速に補給されていく

「普段は気が付かないが、無くなると困るモノ」は、本院にもたくさんあります。患者さんに快適な治療を提議できるような消耗品の量を把握し、補給しているのがサプライセンターです。

体ふく布、医療機器の電池、酸素マスク、人工呼吸器のパーツ、検査用の尿コップ、ペーパータオルなど患者さんが病院で目にする様々な消耗品が対象になります。診察室やナースステーションで必要な文房具も管理しています。特に使用頻度が高いものはディスプレイザブルの手袋で、患者さんの体をふいたり、部屋を掃除したりするときによく使います。

その他、医療安全に関するものでは、医療廃棄物を分別するためのシールやごみ袋などもあり、外来や病棟、手術室からICUまで病院内のすべての部署に届けています。サプライセンターでは担当者が週1回各部署を回り、消耗品の数をチェックするとともに、補充品を各部署のコンテナに入れ、翌日には届けています。また、短期間に多量の需要があつて不足した場合は、各部署から午前中に臨時請求することもできます。サプライセンター内の在庫管理も適宜行い、在庫切れのない

## 消耗品を迅速に、災害にも備え

ように細心の注意を払っています。本院は災害拠点病院の指定も受けています。動に支障が出ないよう、マスクやガウン、手袋などの備蓄基地にもなっています。センターは目立たないところで、病院を支えています。

### 新中央診療施設長等ごあいさつ



●ハートセンター長

さわ よしき  
澤 芳樹

平成19年に循環器内科と心臓血管外科が同じ病棟9階にあることから統合され、ハートセンターが設置されました。このたび小室教授のご退任にあたり、私が再びセンター長に就任いたします。循環器内科、心臓血管外科ともに高度先進医療に取り組む全国の最終受け入れ病院として、日本中から期待されています。今後看護部門と一体になり、一層の合理化を推進し、理想的な循環器医療を推進できるよう、また一人でも多くの心血管疾患患者さんのご期待に添えるように努力していきたいと思っています。



●薬剤部長

みわ よしひろ  
三輪 芳弘

薬剤部は、調剤室や病棟薬剤室など計10室から構成され、各室が相互協力して業務を行っています。他職種間の相互協力にも積極的にに関わり、ICT(感染制御チーム)やNST(栄養サポートチーム)等に参画し、医療チームの一員として薬剤師の職能を発揮しています。また、抗がん剤調製やレジメンチェック(化学療法計画書の監査)等の医薬品適正使用管理により、医師・看護師の負担軽減や医療安全に貢献しています。今後、薬剤師の病棟常駐を積極的に進める予定で、更なる質の高い医療の提供に関与していきたいと考えています。